

2022年3月期 決算説明資料

2022年5月13日
株式会社加藤製作所



I. 2022年3月期 連結決算概要

1. 連結業績サマリー	P.2
2. 連結業績推移	P.3-P.4
3. 連結損益計算書	P.5
4. 営業利益の増減分析	P.6
5. 連結貸借対照表	P.7
6. 連結キャッシュ・フロー計算書	P.8
7. 連結主要品目別売上高推移	P.9-P.12
8. 連結仕向地別売上高推移	P.13

II. KATO Reborn Project

P.14
P.15

III. 2023年3月期 連結業績予想

P.16

IV. TOPICS

P.17-P.22

連結業績サマリー



- 当連結会計年度の売上は、海外での建設用クレーン及び油圧ショベルの販売増により、前期比で50億円の増収
- 「KATO Reborn Project」における施策実施により、一過性の損失を計上するものの、当該影響額を除くと業績は大幅に回復

	前期実績 (2021年3月期)		当期実績 (2022年3月期)	(単位：百万円) 前期比
売上高	58,519	▶	63,549	+5,029
営業利益	△2,810	▶	△7,222 △967	△4,412 +1,843
経常利益	△1,921	▶	△6,929 △674	△5,008 +1,247
親会社株主 当期純利益	△5,738	▶	△9,575 226	△3,837 +5,964
1株当たり 配当金 (円)	中間 00.00 期末 10.00 年間 10.00	▶	中間 00.00 期末 10.00 年間 10.00 (予想)	

※一過性の損失・・・収益構造改革の一環により実施した損失

在庫圧縮の観点から長期滞留在庫の評価減、加藤（中国）工程机械有限公司の貸倒引当金（営業利益△6,255百万円）
希望退職引当金、常陸那珂工場の減損、タイ工場の解散及び清算に伴う減損（特別損失△3,547百万円）

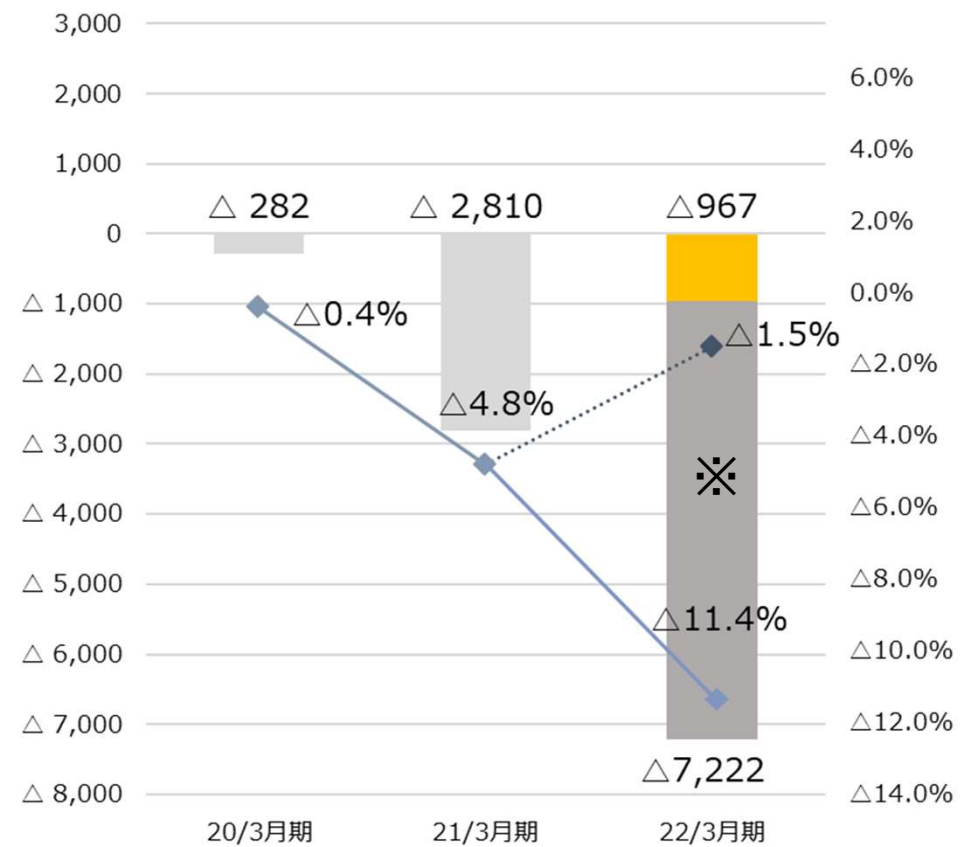
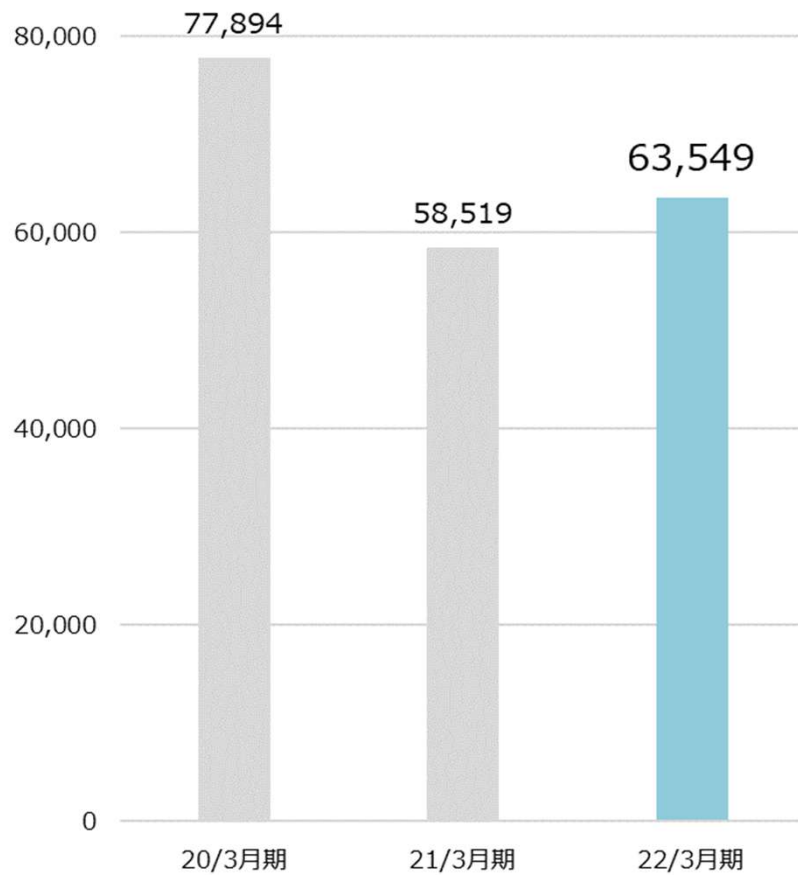
連結業績推移



(単位：百万円)

売上高

営業利益・営業利益率

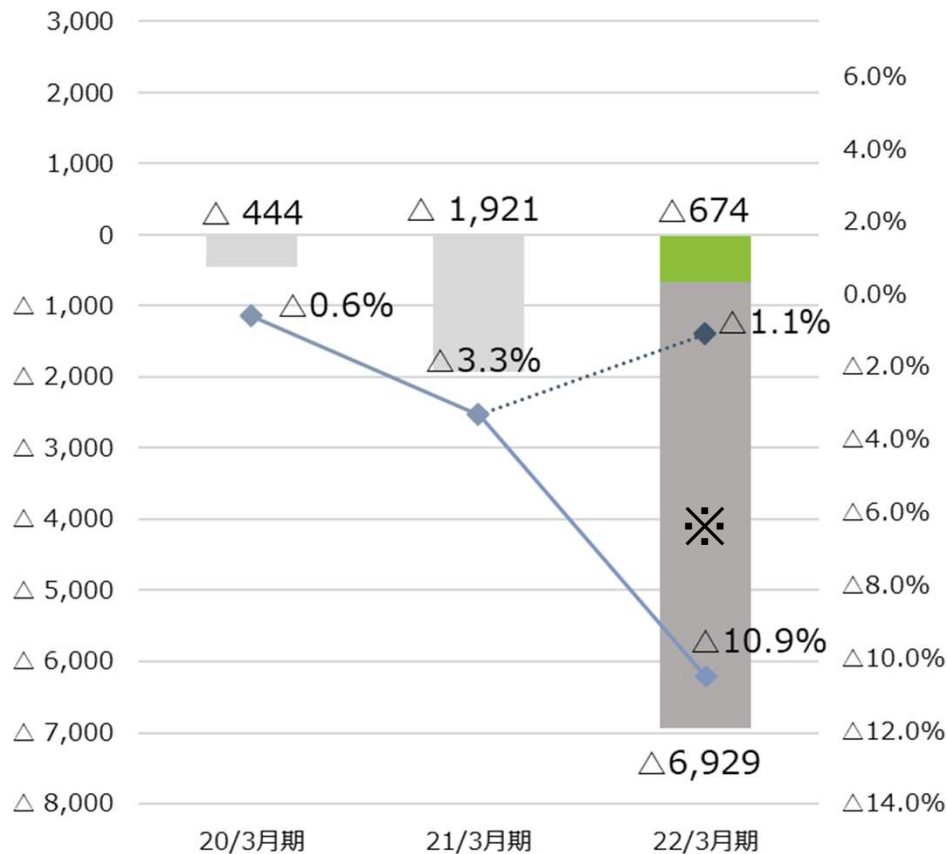


連結業績推移

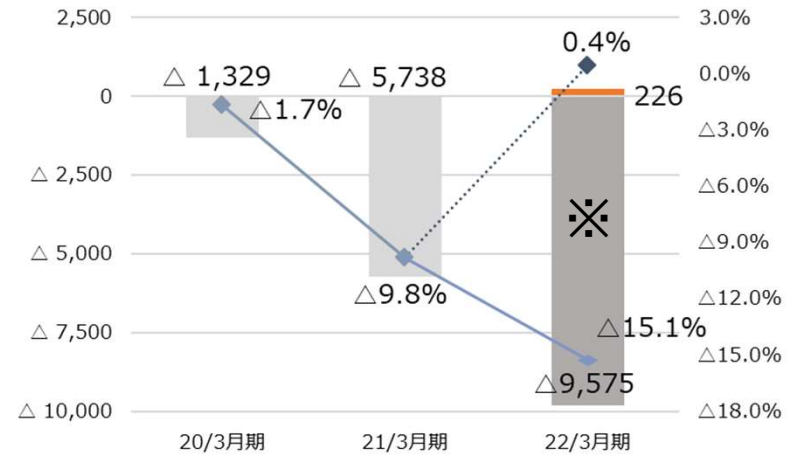


(単位：百万円)

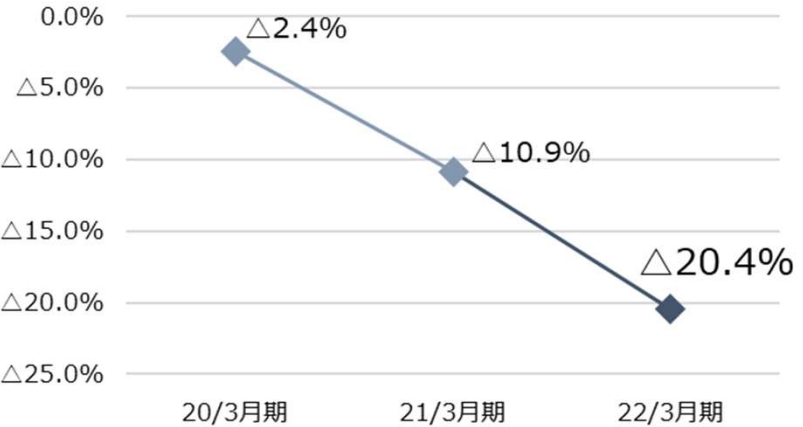
経常利益・経常利益率



親会社株主当期純利益 純利益率



ROE (自己資本利益率)



※一過性の損失を計上 (P.2参照)

連結損益計算書



(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		前期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	58,519	100.0%	63,549	100.0%	5,029	8.6%
売上原価	52,888	90.4%	56,913	89.6%	4,025	7.6%
売上総利益	5,631	9.6%	6,635	10.4%	1,003	17.8%
販管費	8,442	14.4%	13,857	21.8%	5,415	64.1%
営業利益	△ 2,810	△4.8%	△ 7,222	△11.4%	△ 4,411	-
営業外損益	888	1.5%	293	0.5%	△ 595	△67.0%
経常利益	△ 1,921	△3.3%	△ 6,929	△10.9%	△ 5,007	-
特別損益	△ 595	△1.0%	△ 2,088	△3.3%	△ 1,492	-
税前利益	△ 2,517	△4.3%	△ 9,017	△14.2%	△ 6,499	-
法人税等	3,231	5.5%	572	0.9%	△ 2,658	△82.3%
非支配株主当期純利益	△ 10	0.0%	△ 14	0.0%	△ 4	-
親会社株主当期純利益	△ 5,738	△9.8%	△ 9,575	△15.1%	△ 3,836	-
ROE		△10.9%		△20.4%		-

▶ 売上高の増加

58,519百万円 → 63,549百万円
→ クレーン、油圧ショベルともに海外売上を中心に増収

▶ 特別損益の計上

△595百万円 → △2,088百万円
→ 常陸那珂工場の閉鎖、タイ工場の解散及び清算により減損損失を計上

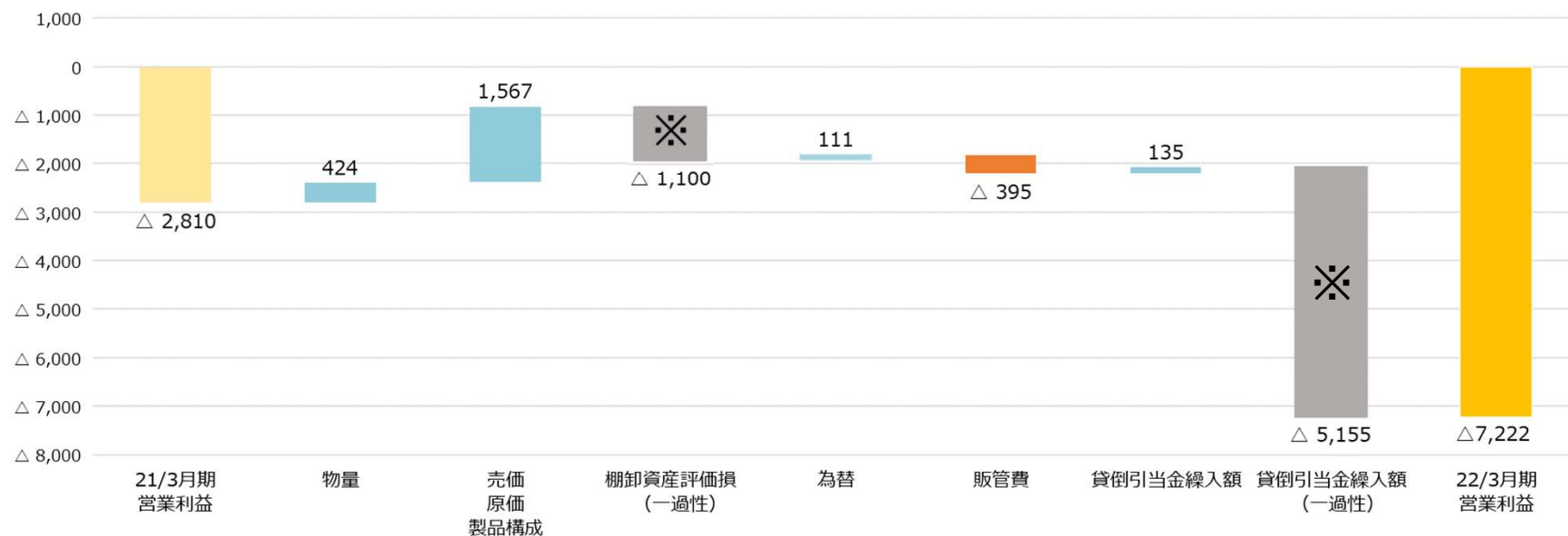
▶ 売上原価率の改善

90.4% → 87.8% (P.6 棚卸資産評価損(一過性)を除く)
→ 「KATO Reborn Project」のコスト削減による
効果発現により改善

営業利益の増減分析



(単位：百万円)



▶ 営業利益増減要因

- ・物量の上昇により
- ・売価/原価/製品構成の変動 (一過性除く)
- ・棚卸資産評価損 (一過性) 計上により
- ・為替の変動により
- ・販管費の増加により
- ・貸倒引当金繰入額の減少により
- ・貸倒引当金繰入額 (一過性) の増加により

424百万円
 1,567百万円
 △1,100百万円 ※
 111百万円
 △395百万円
 135百万円
 △5,155百万円 ※

▶ **△7,222百万円**

連結貸借対照表



(単位：百万円)

		2021年3月期		2022年3月期		前期末比	
		金額	比率	金額	比率	増減額	
資産の部	流動資産	手許資金	14,782	12.8%	18,669	18.2%	3,886
		売上債権	32,813	28.3%	28,340	27.6%	△ 4,472
		棚卸資産	40,814	35.2%	32,070	31.2%	△ 8,743
		その他	△ 2,715	△ 2.3%	△ 1,662	△ 1.6%	1,052
	流動資産計	85,694	74.0%	77,417	75.4%	△ 8,277	
	固定資産	有形固定資産	25,235	21.8%	21,185	20.6%	△ 4,050
		無形固定資産	422	0.4%	399	0.4%	△ 23
投資その他の資産		4,469	3.9%	3,643	3.5%	△ 825	
固定資産計	30,127	26.0%	25,228	24.6%	△ 4,899		
資産合計	115,822	100.0%	102,645	100.0%	△ 13,176		
負債・純資産の部	負債	仕入債務	12,253	10.6%	13,159	12.8%	905
		有利子負債	46,512	40.2%	40,149	39.1%	△ 6,362
		その他	5,561	4.8%	5,090	5.0%	△ 470
	負債計	64,327	55.5%	58,400	56.9%	△ 5,927	
	純資産	利益剰余金	38,188	33.0%	28,495	27.8%	△ 9,692
		評価換算差額等	2,312	2.0%	4,640	4.5%	2,327
		その他	10,993	9.5%	11,109	10.8%	115
純資産計	51,494	44.5%	44,245	43.1%	△ 7,248		
負債・純資産計	115,822	100.0%	102,645	100.0%	△ 13,176		

▶ 売上債権の減少

32,813百万円 → 28,340百万円
 → 売上債権回転期間は41.9日改善
 (21/3月期 : 204.7日
 22/3月期 : 162.8日)

▶ 棚卸資産の減少

40,814百万円 → 32,070百万円
 → 棚卸資産回転期間は70.5日改善
 (20/3月期 : 254.6日
 21/3月期 : 184.1日)

▶ 有形固定資産の減少

25,235百万円 → 21,185百万円
 → 遊休地の売却、常陸那珂工場の減損、
 タイ工場の解散及び清算に伴う減損計
 上により減少

▶ 有利子負債の減少

46,512百万円 → 40,149百万円
 → 長期借入金の返済により減少

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

		2021年3月期	2022年3月期
		金額	金額
営業キャッシュフロー	税前利益	△ 2,517	△ 9,017
	減価償却費	2,133	1,956
	売上債権増減額	7,655	6,342
	棚卸資産増減額	4,824	9,427
	仕入債務増減額	△ 9,066	731
	その他	△ 321	105
	営業キャッシュフロー計	2,709	9,547
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△ 2,999	△ 1,241
	その他	△ 101	1,737
	投資キャッシュフロー計	△ 3,101	496
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	3,139	△ 6,362
	その他	△ 153	△ 275
	財務キャッシュフロー計	2,986	△ 6,637
増減額	換算差額	230	648
	増減額計	2,825	4,054
	現金及び現金同等物の期首残高	11,101	14,614
	新規連結に伴う 現金及び現金同等物の増加額	688	-
	現金及び現金同等物の期末残高	14,614	18,669
	有利子負債残高	46,512	40,149

➤ 営業CFの増加

→ 主として売上債権の減少
や棚卸資産の減少

➤ 財務CFの減少

→ 主として長期借入金の返済

連結主要品目別売上高推移



(単位：百万円)

	2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
建設用クレーン								
国内売上高	42,667	54.8%	30,320	51.8%	30,889	48.6%	569	1.9%
海外売上高	5,145	6.6%	4,453	7.6%	6,274	9.9%	1,821	40.9%
計	47,813	61.4%	34,773	59.4%	37,163	58.5%	2,390	6.9%
油圧ショベル等								
国内売上高	12,244	15.7%	10,682	18.3%	11,463	18.0%	780	7.3%
海外売上高	16,785	21.5%	11,459	19.6%	13,825	21.8%	2,365	20.6%
計	29,029	37.3%	22,142	37.8%	25,288	39.8%	3,146	14.2%
その他								
国内売上高	1,031	1.3%	1,604	2.7%	1,078	1.7%	△ 525	△32.7%
海外売上高	19	0.0%	0	0.0%	17	0.0%	17	
計	1,051	1.3%	1,604	2.7%	1,096	1.7%	△ 507	△31.6%
合計								
国内売上高合計	55,944	71.8%	42,607	72.8%	43,431	68.3%	824	1.9%
海外売上高合計	21,950	28.2%	15,912	27.2%	20,117	31.7%	4,204	26.4%
計	77,894	100.0%	58,519	100.0%	63,549	100.0%	5,029	8.6%

➤ 建設用クレーン

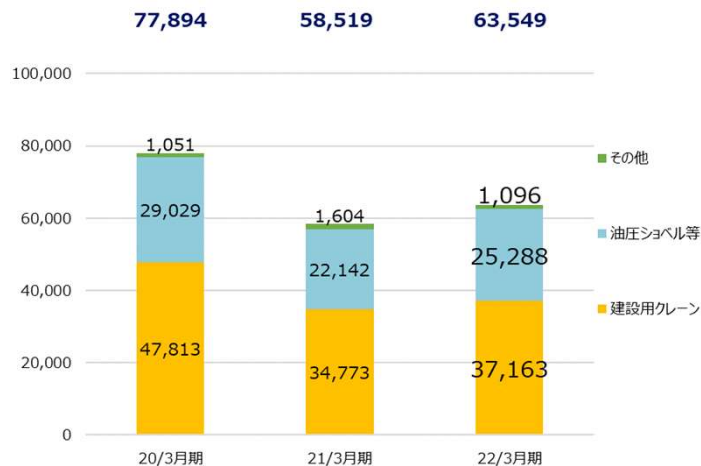
国内：国内売上高は横ばい
海外：アジア・大洋州を中心に販売が増加

➤ 油圧ショベル等

国内：公共工事・民間工事の回復から
販売は堅調に推移
海外：北米・欧州向けが増加・中国・ロシア
向けが減少

主要品目別売上高推移

(単位：百万円)



国内外売上高推移

(単位：百万円)



連結主要品目別売上高推移（建設用クレーン）



【主要製品紹介】

ラフテレーンクレーン

- 1つの運転室で走行とクレーン操作が可能
- 不整地走破性と小回り性に優れたクレーン
- 国内向け (4.9t~80t 10機種)
- 国外向け (13t~70t 8機種)



オールテレーンクレーン

- 走行用とクレーン操作でそれぞれ独立した運転室を持つ
- 高速走行性と不整地走破性を兼ね備えたクレーン
- 国内向け (110t~300t 4機種)
- 国外向け (110t~130t 2機種)



クローラクレーン

- ラチスブームは組み合わせにより多様な現場に対応可能
- テレスコブームはブーム伸縮により早いセットアップが可能
- 国内向け (50t~200t 6機種)
- 国外向け (55t~300t 6機種)



(単位：百万円)

売上高推移



➤ 国内

→ 35 t・60 t ラフターの新機種投入効果もあり大型ラフターが増加
売上高は前期比1.9%増加とほぼ横ばい

➤ 海外

→ アジア・大洋州・中東・欧州で売上増加
売上高は、前期比40.9%増加

連結主要品目別売上高推移（油圧ショベル等）



【主要製品紹介】

油圧ショベル

- ・ クローラ式走行部を有する掘削機械
- ・ 不特定の場所を自走できる
- ・ 頑丈で操作性が良い
- ・ 国内向け（8t～50t 7機種）
- ・ 国外向け（8t～38t 12機種）



ミニショベル

- ・ 小型の油圧ショベル
- ・ 小回りが効くため、多様な現場で活用可能
- ・ 国内向け（0.9t～8t 15機種）
- ・ 国外向け（0.9t～13t 21機種）



クローラキャリア

- ・ 不特定の場所を自走できる運搬機械
- ・ 作業効率が良く多彩な現場で活用可能
- ・ 国内向け（3.7t～11t 7機種）
- ・ 国外向け（3.7t～11t 5機種）



（単位：百万円）

売上高推移



➤ 国内

→ 需要回復により販売は堅調に推移
売上高は前期比7.3%増加

➤ 海外

→ 北米（ミニショベル・クローラキャリア）・欧州（ミニショベル）が増加・中国（油圧ショベル・ミニショベル）・CISの販売が減少、売上高は前期比20.6%増加

連結主要品目別売上高推移（その他）



【主要製品紹介】

路面清掃車

- 高い清掃能力とコンパクト化を両立
- 人に優しい低騒音・高効率スイーパ
- 国内向け（2機種）
- 国外向け（個別対応）



万能吸引車

- 汚泥から粉粒体まで、多様な吸引車
- 小型から大型まで多機種を取り揃えた多彩なラインナップ
- 国内向け（9機種）
- 国外向け（個別対応）



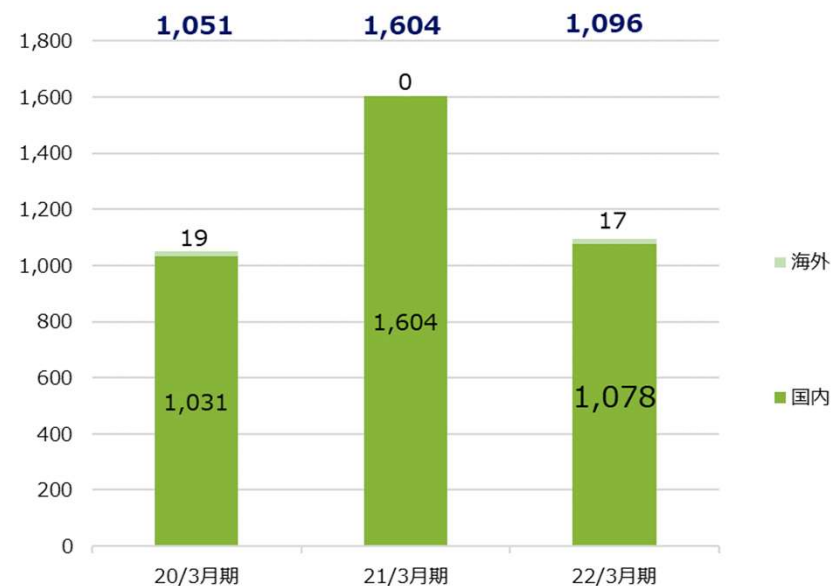
スノースイーパー

- 強力なブラシ＆ブロー式を採用
- スピーディで効率の良い除雪作業を実現
- 国内向け（5機種）
- 国外向け（個別対応）



（単位：百万円）

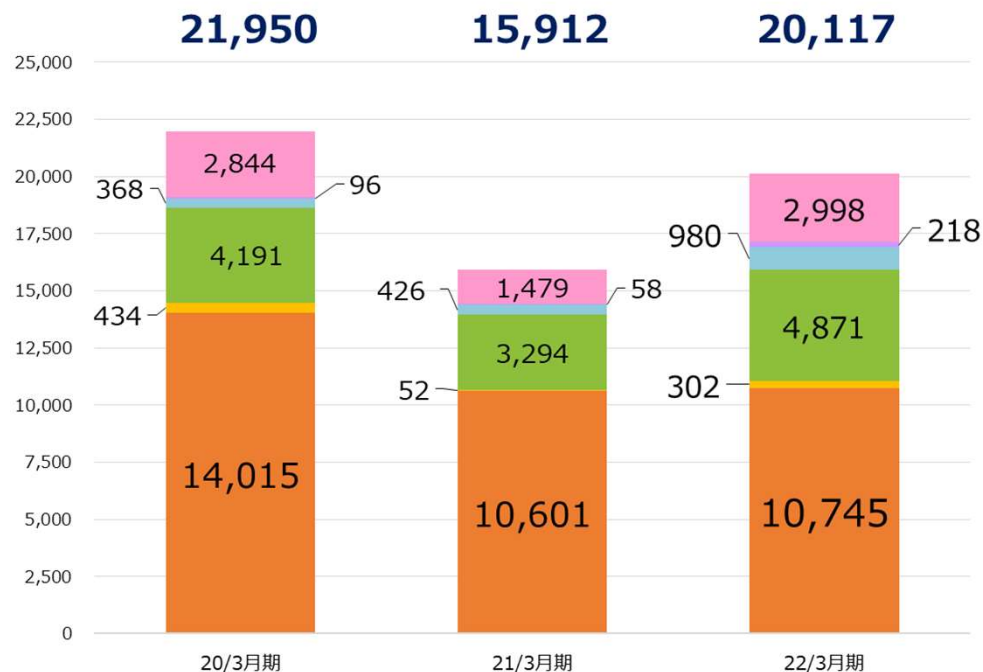
売上高推移



➤ 売上高

→スノースイーパーの減少
売上高は前期比31.6%減少

連結仕向地別売上高推移（日本除く）



- (単位：百万円)
- ▶ **アジア（前期比101.4%）**
10,601百万円 → 10,745百万円
(144百万円)
→ 中国を除くアジア・大洋州で増加
中国の油圧ショベルは減少
 - ▶ **欧州（前期比147.9%）**
3,294百万円 → 4,871百万円
(1,576百万円)
→ EUコロナ復興基金によりインフラ投資増加
受注・売上増加
 - ▶ **オセアニア（前期比229.7%）**
426百万円 → 980百万円
(553百万円)
→ クレーンの販売が増加
 - ▶ **米州（前期比202.6%）**
1,479百万円 → 2,998百万円
(1,518百万円)
→ ミニショベル・クローラキャリアの販売が回復

(単位：百万円)

	2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		前期比		総売上高構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	14,015	63.9%	10,601	66.6%	10,745	53.4%	144	1.4%	16.9%
中近東	434	2.0%	52	0.3%	302	1.5%	250	480.0%	0.5%
欧州	4,191	19.1%	3,294	20.7%	4,871	24.2%	1,576	47.9%	7.7%
オセアニア	368	1.7%	426	2.7%	980	4.9%	553	129.7%	1.5%
アフリカ	96	0.4%	58	0.4%	218	1.1%	160	276.1%	0.3%
米州	2,844	13.0%	1,479	9.3%	2,998	14.9%	1,518	102.6%	4.7%
海外売上高合計	21,950	100.0%	15,912	100.0%	20,117	100.0%	4,204	26.4%	31.7%

KATO Reborn Project



- 短期的なテーマについては、効果が発現しつつあります。
- 中長期的なテーマについては、2022年3月に公表しました中期経営計画に組み込み、将来的な成長戦略に繋げる施策として、継続して取り組みます。

方針	重点テーマ	今後の方向性	効果発現時期	
			短期	中長期
収益性改善	製品ポートフォリオの見直しによる収益の最大化	重点顧客・重点販売製品の設定	○	
		顧客ニーズと収益性を意識した開発ロードマップへ見直し		○
	開発資源の集中による製品開発の加速	当社の強みのある分野に集中		○
		開発優先順位付けと開発資源の再分配		○
	グローバル戦略の見直し及びサプライチェーンの再構築	開発ロードマップに則した海外販売戦略の見直し		○
		生産拠点移管による生産性の改善	○	
	抜本的なコスト構造の見直し	交渉/転注による材料費の削減	○	
		調達方法見直しによる外注費の削減	○	
		生産の平準化による製造原価の削減	○	
	アフターマーケットへの更なる注力	今後のアフターサービスの実施体制の構築	○	
アフターパーツ販売強化のための体制構築		○		
資金効率改善	在庫・売上債権管理の厳格化による運転資本改善	生販の情報連携強化による在庫圧縮	○	
		売上債権管理の厳格化	○	
	構造改革によるCF改善	遊休不動産の売却	○	

KATO Reborn Project 進捗



➤ 2021年8月時点で公表した施策について、短期的なテーマを中心に着実に効果が発現

方針	重点テーマ	取組状況	効果発現状況
収益性改善	製品ポートフォリオの見直しによる収益の最大化	重点顧客・重点製品への注力により、受注量の増加	<ul style="list-style-type: none"> ➤ クレーン主体に前期比増加傾向 ➤ 2022年度の国内クレーン受注進捗は前年同期と比較して増加
	開発資源の集中による製品開発の加速	開発優先機種の設定及び資源の集中投下により開発期間の短縮に向けた取り組みに着手	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2021年度クレーン4機種の市場投入 ➤ 2022年度以降も新機種を導入予定
	グローバル戦略の見直し及びサプライチェーンの再構築	小型ラフターの生産拠点を移管し2工場の生産性を改善 タイ工場の閉鎖と清算を決定	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 売上原価率（P.6 棚卸資産評価損（一過性）を除く）の改善（前期：90.4%→当期：87.8%） ➤ 連結子会社及び工場用地に係る減損損失29億円計上により財務健全化 ➤ 希望退職により翌期以降の人件費約8億円が改善見込み
	抜本的なコスト構造の見直し	重点機種のコスト構造見直し、外注費削減・生産性改善により製造原価を低減	
	アフターマーケットへの更なる注力	サービス強化に向けたオペレーションの見直しに着手	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 部品供給力向上
資金効率改善	在庫・売上債権管理の厳格化による運転資本改善	営業・製造との情報交換・連携強化により在庫金額の圧縮 加藤中国の売上債権管理を厳格化	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 在庫金額 前期比▲87億円の改善、棚卸資産回転期間の短縮（前期：254.6日→当期：184.1日） ➤ 引当金51億円計上
	構造改革によるCF改善	遊休不動産の売却	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 3物件を売却済

2023年3月期連結業績予想



見通しポイント

- 国内における新型コロナウイルス感染症の経済影響は持ち直しが想定される一方で、海外における新型コロナウイルス感染症の影響は地域差が大きくサプライチェーンは混乱が継続、加えてロシアによるウクライナ侵攻による原油高・物流費の高騰など、世界経済の先行きは不透明感が増しています。
- 当社グループを取り巻く市場環境については、国内では、コロナショックからの緩やかな回復基調は継続、中国では、ゼロコロナ政策の影響により不透明感はぬぐえない一方、欧州・北米では、油圧ショベル等の需要拡大が継続するものと想定しております。
- 中期経営計画では、収益性改善・強化、財務体質の改善、将来の基盤構築の3本柱とし、2022年3月までに実施した抜本的な収益構造の見直しにより、売上高は微増ながら着実に利益が出せる体質への転換を図る予定です。

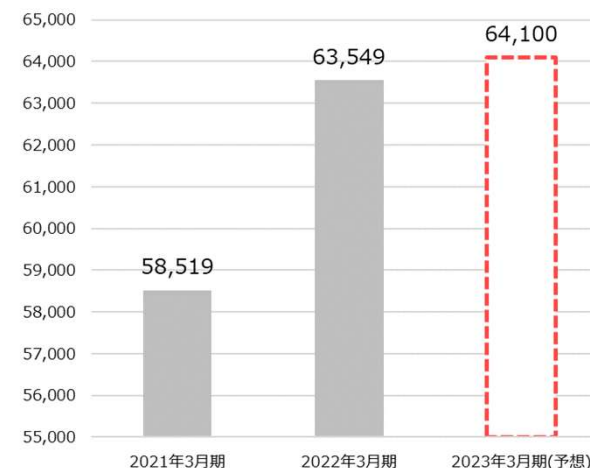
	2022年3月期		2023年3月期(予想)	
	金額	比率	金額	増減
売上高	63,549	100.0%	64,100	+550
営業利益	△ 7,222	△ 11.4%	1,300	+8,522
経常利益	△ 6,929	△ 10.9%	1,000	+7,929
親会社株主当期純利益	△ 9,575	△ 15.1%	600	+10,175

1株当たり 配当金	2022年3月期		2023年3月期(予想)	
	中間	期末	中間	期末
		0.00円		0.00円
		※ 10.00円		10.00円
	年間	※ 10.00円		10.00円

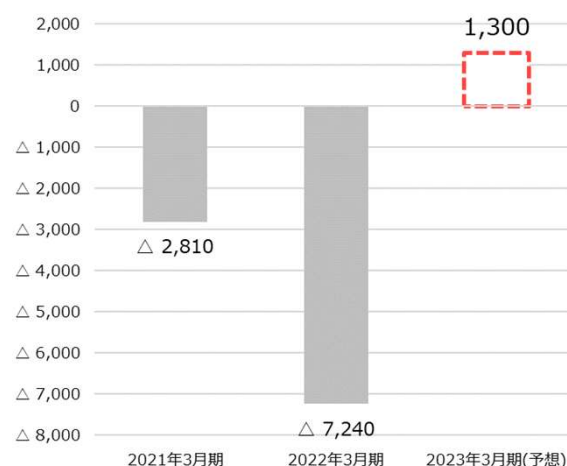
※2022年3月期の1株当たりの期末・年間配当金は、2022年6月29日開催予定の第123回定時株主総会にて正式に決定される予定です。

(単位：百万円)

売上高



営業利益



➤油圧ショベル HD-2050-7 新発売

REGZAMの新シリーズとして排ガス後処理ユニットを搭載し、KATO独自の低燃費技術を搭載した大型油圧ショベルが登場。

～2021年7月より～

- ✓ 特定特殊自動車少数特例2014年基準同等適合のエンジンを搭載
- ✓ 国土交通省低騒音型建設機械指定制度における低騒音型建設機械の指定を取得
- ✓ 各種油圧システムの一斉、フロント油圧配管の大型化により作業性能を向上
- ✓ フロント各部、足回りの強化により負荷のかかる現場においても耐久性の向上を実現
- ✓ グリップ形状を変更した新型操作レバーは操作力を20%軽減し、長時間の作業でも楽な作業が可能



▶ラフテレーンクレーン SL-750Rf II 新発売

業界NO.1の安全性と環境への配慮を目指す新型75t吊りラフターが登場

～2021年6月より～

- ✓ 6段高剛性スーパーブーム
ロックピンとフルパワーを融合した伸縮システムHYBRIDZOOMにより高効率・高性能
- ✓ 環境にやさしい平成26年ディーゼル特殊自動車排出ガス規制適合エンジン搭載
また、低騒音型建設機械の指定を取得
- ✓ クリアランスソナーシステムを標準装備
超音波センサーによる障害物検知機能により走行中の安全性向上
- ✓ タイヤ空気圧モニタリングシステムをオプション設定
タイヤの空気圧と温度の異常を注意喚起し、
適正な空気圧を保つことで、燃費が向上し、
タイヤの長寿命化にも寄与



➤ラフテレーンクレーン MR-130Rf II 新発売

13 t ラフテレーンクレーン初の空中振出式ジブ(EJIB TYPE S)を採用

～2021年8月より～

- ✓ 空中振出式ジブ(EJIB TYPE S)の採用によりジブ装着格納作業の省スペース化を実現
また、ジブ装着格納作業が容易化し、オペレーターの負担を軽減
- ✓ 環境にやさしい平成26年ディーゼル特殊自動車排出ガス規制適合エンジン搭載
また、低騒音型建設機械の指定を取得
- ✓ 様々な現場状況に合わせ、
アウトリガはH型とX型2種類から選択可能
- ✓ KATOセーフティビューシステムをオプション設定
独自のサラウンドビューシステムや
人検知アシストカメラで走行時、
作業時ともに安全性向上



▶ラフテレーンクレーン SL-600Rf II 新発売

業界NO.1の安全性と環境への配慮を目指す新型60t吊りラフターが登場

～2021年11月より～

- ✓ EJIB 3段SL仕様の採用
3段油圧伸縮式のジブを採用することで、懐の深い作業を実現
- ✓ KATOセーフティビューシステムを標準装備
人検知アシストカメラやKATO独自のサラウンドビューシステムにより走行・作業中の安全性向上
- ✓ 環境にやさしい平成26年ディーゼル特殊自動車排出ガス規制適合エンジン搭載
また、低騒音型建設機械の指定を取得
- ✓ タイヤ空気圧モニタリングシステムをオプション設定
タイヤの空気圧と温度の異常を注意喚起し、
適正な空気圧を保つことで、燃費が向上し、
タイヤの長寿命化にも寄与



▶ラフテレーンクレーン MR-350Rf II 新発売

35tラフテレーンクレーン初の空中振出式ジブ(EJIB TYPE S) 3段SL仕様を採用

～2021年12月より～

- ✓ 空中振出式ジブ(EJIB TYPE S)の採用によりジブ装着格納作業の省スペース化を実現
また、ジブ装着格納作業が容易化し、オペレーターの負担を軽減
さらに、3段油圧伸縮式のジブを採用することで、懐の深い作業を実現
- ✓ 環境にやさしい平成26年ディーゼル特殊自動車排出ガス規制適合エンジン搭載
また、低騒音型建設機械の指定を取得
- ✓ 坂道発進補助装置を新規設定
ブレーキからアクセルに踏み替える際に、
ブレーキペダルから足を離しても
ブレーキ制動を保持し、坂道の発進を
サポート
補助装置の有効無効、解除の
タイミングの切替えも可能



TOPICS (2023年3月期導入機種)

KATO

▶ラフテレーンクレーン SR-250RfⅡ 新発売

業界NO.1の安全性と環境に優しい25t吊りラフターが登場

～2022年6月より～

- ✓ 好評のEJIBを採用
装着・格納作業が、早い・安全・省スペースで2段ジブの空中振り出しも可能
- ✓ 環境にやさしい平成26年ディーゼル特殊自動車排出ガス規制適合エンジン搭載
また、低騒音型建設機械の指定を取得予定
- ✓ 乗用車やトラックでは一般的となりつつある
坂道発進補助装置を業界に先駆けて新規設定
- ✓ 選べる3つの仕様を新規設定
お客様のニーズに合わせた安全性能を提供



本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため、本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社加藤製作所
総務部 IR担当

〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail:ir-kato@kato-works.co.jp